

令和6年度

那珂川沿岸地域用水営農推進講演会

と き : 令和 7 年 1 月 2 2 日 (水) 1 4 : 0 0

と ころ : 那珂川沿岸用水管理センター会議室
(那珂川揚水機場)
茨城県水戸市飯富町 5 3 1 0

主 催 公益財団法人 那珂川沿岸土地改良基金協会
〒310-0002 水戸市中河内町958-1
029-227-0311 (tel&fax)
E-mail:mn.nakagawaengan@ai.wakwak.com
[htt://www.nakagawatochikairyokikinkyukai.com/](http://www.nakagawatochikairyokikinkyukai.com/)

講演会開催について

1. 主 旨

那珂川沿岸地域用水営農推進講演会は、那珂川沿岸地域の用水営農の実現に向け、那珂川沿岸農業水利事業に対する意欲高揚を図ることを目的として開催します。

2. 参集者 (1) 那珂川沿岸地域受益農家
(2) 関係国・県・市町村・JA職員ほか

<u>日 程</u>	
13:30	受付
14:00	開 会
14:15	講 演
	内 容：常陸大宮市における有機農業の取り組みについて 有機農業の取り組み 稲作
	講 師：①常陸大宮市 有機農業推進担当職員 常陸大宮市 産業経済部 農林振興課 農業畜産グループ 課長補佐 疋田 徹治 氏
	②常陸大宮市 有機農業実践担い手 株式会社 JA常陸アグリサポート 業務執行取締役 大宮営業所長 鈴木康成 氏
16:15	閉 会

【本日の講師】

①常陸大宮市 産業経済部 農林振興課
農業畜産グループ 課長補佐 疋田 徹治 氏

経歴

昭和50年 茨城県常陸大宮市生まれ
平成10年 御前山村(現常陸大宮市) 入庁
現在 常陸大宮市 産業経済部
農林振興課農業畜産グループ 課長補佐

②株式会社 JA常陸アグリサポート
業務執行取締役
大宮営業所長 鈴木康成 氏

経歴

昭和39年 茨城県常陸大宮市生まれ
平成14年 有限会社 みどりサポート 入社
平成28年 株式会社 JA常陸アグリサポートに合併
現在 株式会社 JA常陸アグリサポート
業務執行取締役 大宮営業所長

常陸大宮市の有機農業の取り組みについて



茨城県 常陸大宮市

2

目次

1. 常陸大宮市の概要
 2. 農業の概況
 3. 有機農業に取り組む理由
 4. 有機農業推進の経過
 5. オーガニックビレッジ宣言
 6. 有機農業の取組状況と今後の目標
 7. オーガニック給食実現に向けた取組状況と今後の目標
 8. 有機農業推進で重視したこと
 9. 有機農業推進に係る支援内容
 10. 最後に
- 【参考例1】 三美地区の基盤整備事業
- 【参考例2】 有機米栽培と栽培管理協定締結までの経過 3

1. 常陸大宮市の概要

《沿革・人口・位置・地勢等》

- 常陸大宮市は、那珂郡大宮町・山方町・美和村・緒川村と、東茨城郡御前山村の5町村の合併により、平成16年10月16日に誕生し、現在、人口が約3万7千人となっています。
- 常陸大宮市は、茨城県の北西部、県都水戸から約20kmの八溝山地及び阿武隈山地の南端と関東平野周縁台地北端の境界部に位置し、東に久慈川、南に那珂川が流れ、市の約6割を山林が占めています。
- 市の東部には、JR水郡線と国道118号が通り、中央部には、国道293号、西部には、国道123号が通っています。
- 面積は、東西約20.8km、南北約26.4kmに及ぶ348.45km²で、茨城県の面積のおよそ5.7%を占めています。
- 気候は、比較的小雨低温の関東北部の内陸型で、年間平均気温は約13℃、年間降雨量は1,300mm前後、降雪は年数回程度です。
- 市の耕地面積は3,510ha(田1,660ha、畑1,850ha)であり、河川流域には水田地帯が開けています。
- 農家戸数は3,065戸です。
- 市の主要な作物は、水稻、ナス、ネギ、切り枝となっており、近年、甘藷の生産や、新規就農者を中心に、イチゴの生産が増加してきております。また、畜産業も盛んに行われております。



4

3. 有機農業に取り組む理由 ～なぜ今オーガニックか～

～ 子どもたちに最高の学校給食を ～

人の身体は食べ物でつくられています。育ち盛りの子どもたちにとって、食事が最も大切であり、安全でエネルギー溢れる食を子どもたちに提供することは、私たち大人の責任です。

これからの日本を担う子どもたちの健康を考えたとき、学校給食において、化学的に合成された農薬や肥料を使用しないで生産した、有機農産物を食べることをきっかけに、保護者の食育への意識を高め、家庭においても有機農産物を食事に取り入れていけるような環境づくりが必要と考えます。

～ この想いから、

常陸大宮市は有機農業を推進します ～ 10

4. 有機農業推進の経過

令和元年度	・有機農家が三美地区に参入 (株) レインボーフューチャー (本社：筑西市) 5.5ha
令和2年度	・三美地区畑地帯総合整備事業の完了
令和3年度	・有機農家が三美地区に参入 (株) カモスフィールド (本社：笠間市) 2.4ha ・茨城県が三美地区を有機農業モデル団地に位置付ける ・常陸大宮市有機農業推進計画の策定
令和4年度	・有機農業の推進を事業化し、本格的に有機農業の推進を開始 ・三美地区でJA子会社が有機農業の取組開始 (株) JA常陸アグリサポート 1.5ha ・野田地区において有機農業の取組開始 (株) 要建設 (本社：水戸市) 14.0ha ・学校給食で有機農産物 (野菜) の使用を開始 ・みどり法に基づく県計画において、「三美地区」「鷹巣地区」を特定区域に設定
令和5年度	・鷹巣地区において、有機JAS取得に向けた水稻栽培を開始 2戸 3.9ha ・11月5日 オーガニックビレッジ宣言 ・学校給食に有機栽培により生産したお米の使用を開始 (約13t) ・12月13日 鷹巣地区における「有機農業を促進するための栽培管理に関する協定」認可

11

6. 有機農業の取組状況と今後の目標

《有機JAS取得農地の状況》

	R2	R3	R4	R5	R6	R7
面積	5.5ha	5.5ha	6.9ha	26.6ha	34.1ha	43.6ha
田					3.9ha	8.7ha
畑	5.5ha	5.5ha	6.9ha	26.6ha	30.2ha	34.9ha
生産者数	1人	1人	2人	4人	9人	12人
販売額		7,160千円	44,976千円	96,520千円		
水稻				6,123千円		
そば				5,098千円		
野菜類		7,160千円	44,976千円	85,299千円		

14

10. 最後に

有機農業の推進には販売戦略が重要

販売先を確保することにより、農家は安心して有機農業に取り組むことが出来ます。

販売先を確保するためには、安定的に生産する規模が必要となります。

販売先として、学校給食など公共調達への促進も重要です。

有機農産物の産地化には県内市町村がまとまることが重要

自治体・農家が個々で、有機農産物を一定量生産することは難しいことです。このことから、茨城県全体でまとまるのが大切で、あわせて、JA関係者間の連携が重要です。

常陸大宮市が短期間で有機農業を推進できた理由

常陸大宮市が短期間で有機農業を推進できたのは、「JA」と強く一体となって取り組むことができ、農家間の調整や販売先の確保が出来たからです。

18

【参考例2】常陸大宮市における有機米栽培の状況等**【令和5年度の有機米生産の実績】**

生産面積 : 3.9 ha
 生産者数 : 2者 (鷹巣地区)
 収穫量 : 279俵 (約16.7t) 約7俵/10a
 品質 : 1等71.5%、2等27.3%
 学校給食 : 11月6日(月)から提供 (精米13t)

【令和6年度の有機米生産の実績】

生産面積 : 8.6 ha
 生産者数 : 3者 (鷹巣地区・八田地区)
 収穫量 : 512俵 (約30.7t) 約5.9俵/10a
 品質 : 1等76.2%、2等23.8%
 学校給食 : 11月から提供 (精米24t)

【令和6年度以降の計画】

・令和7年度作付面積 : 14.3 ha (内有機JAS 10.4 ha)
 ・令和8年度作付面積 : 17.0 ha (内有機JAS 14.0 ha)

【有機米100%学校給食】

・市内小中学校数 : 15校
 ・学校給食精米使用量 : 32t/年
 ・完全有機米とする目標年度 : 令和9年度
 ・完全有機米とするために必要な田んぼの面積 : 15.0 ha

【その他】

・令和10年度には、市内全域で30.0haまで生産面積を拡大していく予定です。



26

有機農業の 取り組み 稲作



29

目次

JA常陸アグリサポート 業務執行取締役 大宮営業所長 鈴木康成 氏

1. 有機農業の取り組み内容
2. 鴻巣地区について
3. 有機栽培米(進捗状況)
4. 年間スケジュール
5. 育苗について
6. 畔張りについて
7. 今後の課題
8. 有機米の栽培について
9. 有機農業と慣行農業の違い
10. 有機米栽培の今後の展開

3

有機農業

取り組み内容

平成27年から野菜栽培を始めて、
令和4年から有機農業の取り組みを開始

野菜の栽培から1ヘクタールを有機
アドバイザーの指導を受け、土壌分析、
有機JASの基準に適合した資材で栽培開始

令和5年から栃木県の稲作研究所の
研修を受けながら稲作作付に取り組む

3 1



3 2



3 3



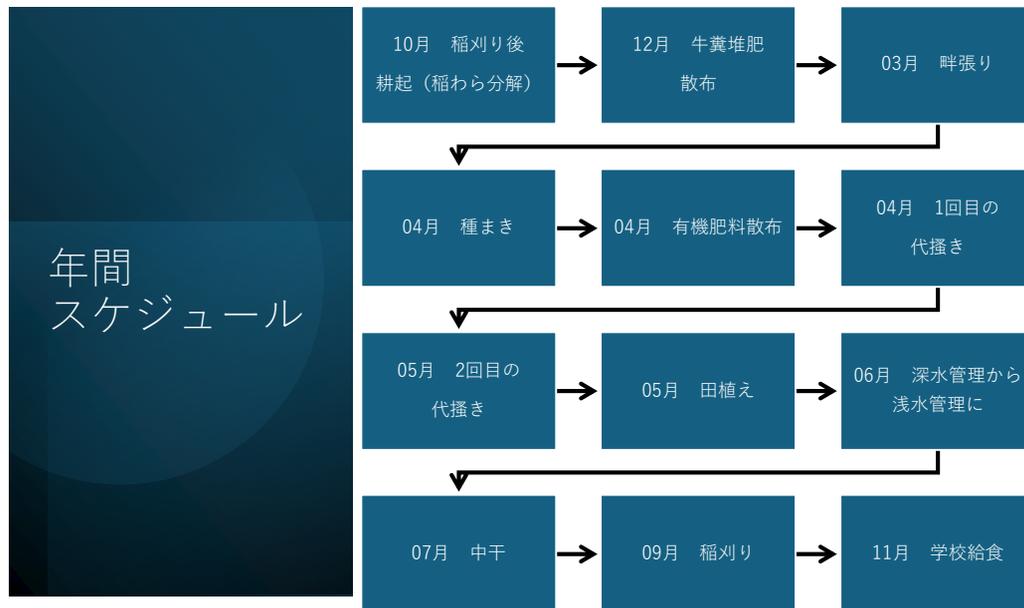
3 4



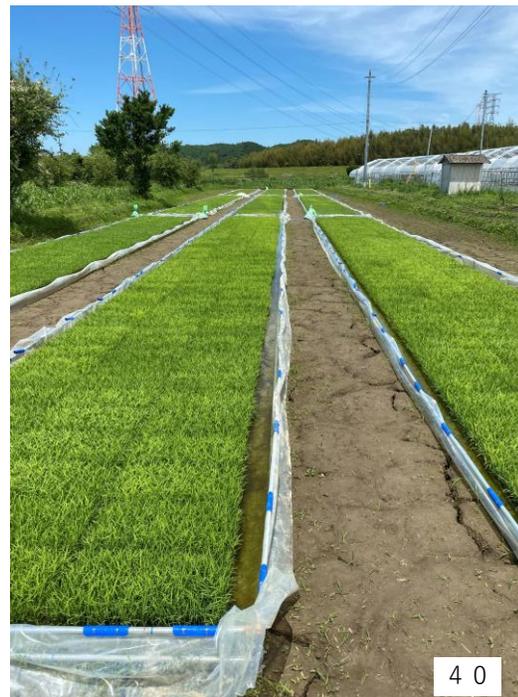
有機サツマイモ
(焼き芋、干し芋への挑戦)

有機栽培米 (進歩状況)





38



40

育苗
2 幼期



4 1

畔張り



4 2

田植え後田
んぼに入ら
ない為に

- 代掻きを複数回おこない、
その間は、湛水状態を保つことで
雑草の成長を抑え効果的に
雑草をコントロールする

4 3



4 4

2回の代掻きと深水管理

- 4月中旬に1回目の代掻き 30日間常時淡水
 - * たっぷり水で雑草種子を上方に移動させる
 - * 1回目の代掻きでできるだけ雑草の種を発芽させることがポイント
 - トトロロ層生成



- 3週間後 2回目の代掻き 5月下旬田植え
 - * 雑草を練りこむor浮かせて除去
- (田植え後は7cm以上の深水管理、必要に応じて抑草資材散布)

4 5



4 9



5 0

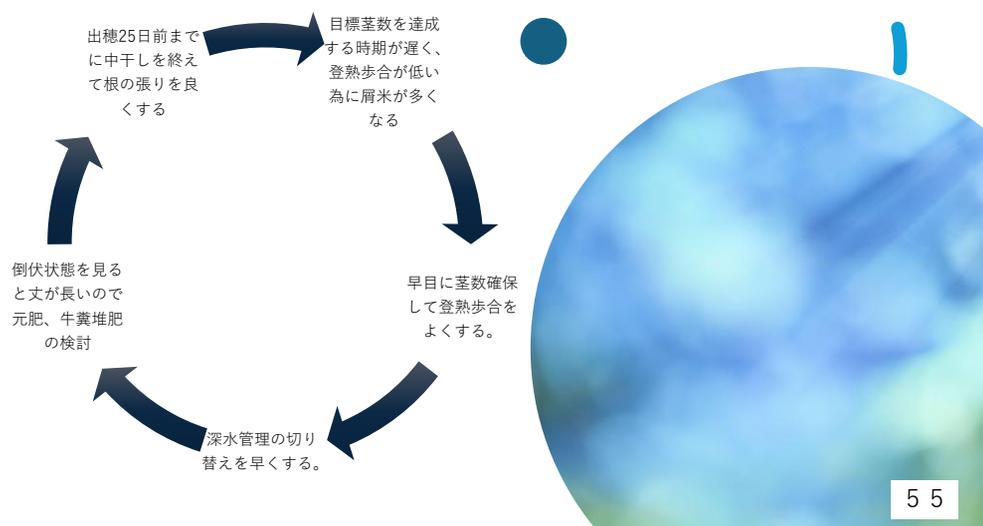


5 1



5 2

今後の課題



5 5

有機米の栽培について

•有機米を始めた経緯

有機農業の中でも技術が野菜よりも確立していたため
自分自身が米に携わっている期間が長いため
市役所の担当者がやるよねと言ってきたから

56

有機米栽培の 今後の展開



58